

# ネットモニター調査結果 - '22年4月期 -

ご協力いただいたモニター数：266社  
調査期間：2022年5月6日～13日

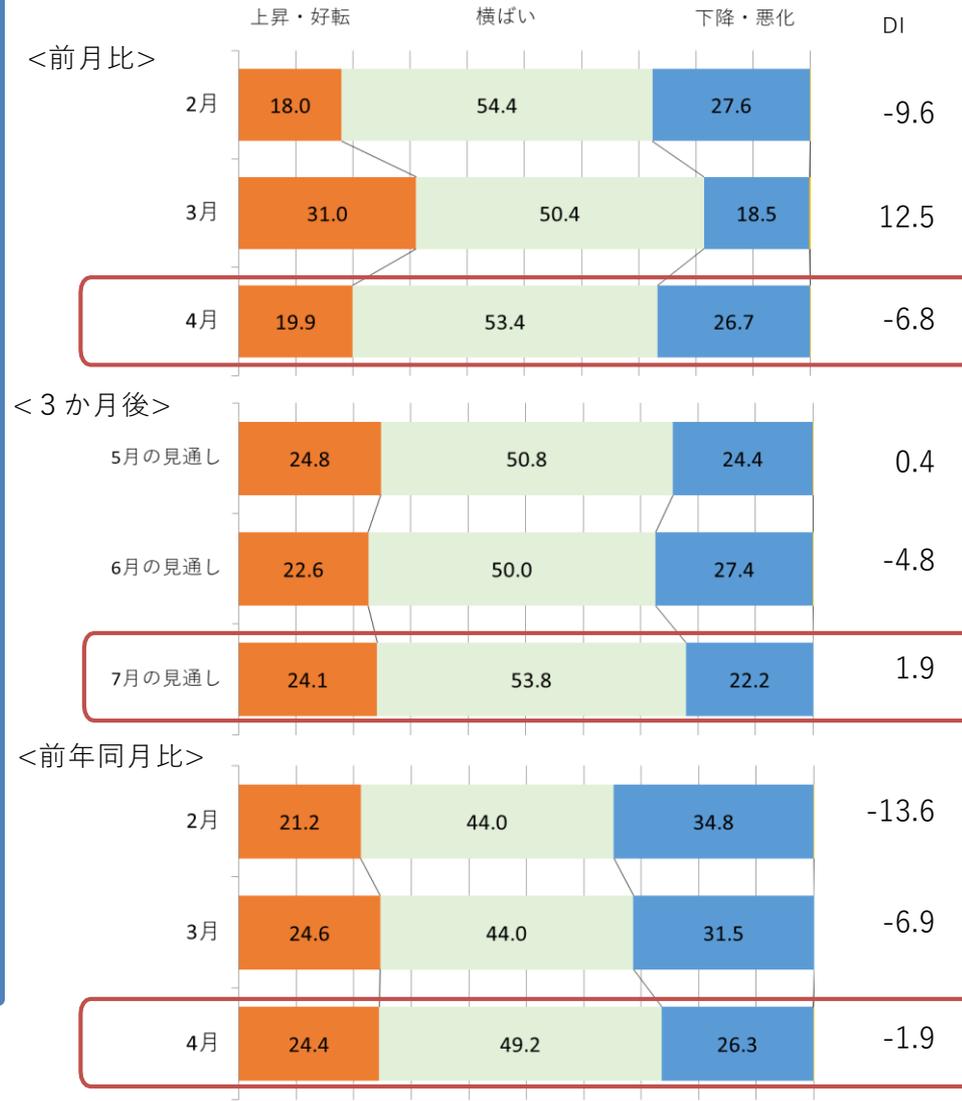
## 《4月の景況判断に関する要点》 (図A、図B、図C)

### 景気は、製造業で悪化、 非製造業は持ち直し基調にあるが弱めの動き

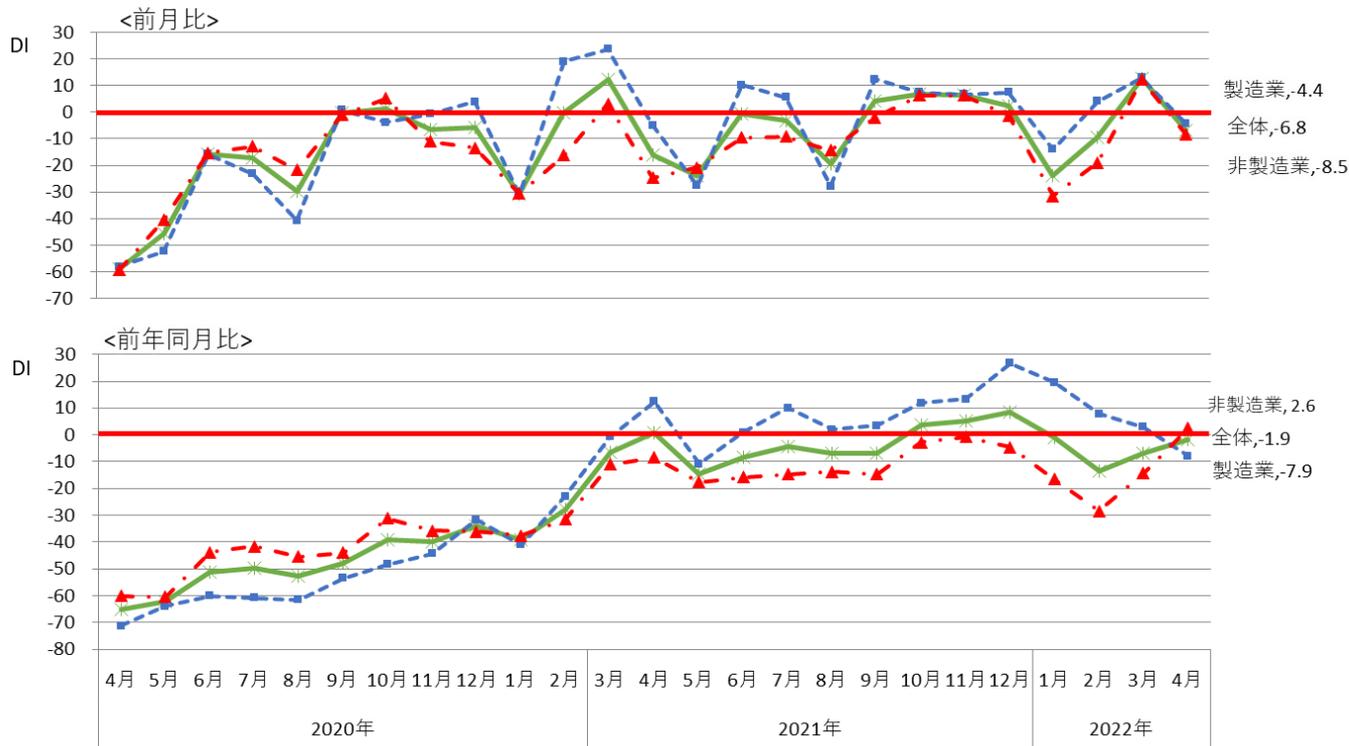
- 4月の景況 (前月比)** をみると、「上昇・好転」の割合は11.1ポイント下降して19.9%、「下降・悪化」は8.2ポイント上昇して26.7%となり、DIは、**19.3ポイント下降して-6.8**となった。  
業種別DIは、製造業で17.3ポイント下降して-4.4、非製造業で20.7ポイント下降して-8.5となった。
- <上昇・好転要因>** は、「時期的、季節的な要因で」が45.3%、「内需が増大したから」が43.4%と突出して高くなった。
- <下降・悪化要因>** は、「内需が減少したから」が52.1%と最も高く、次いで、「原材料・仕入れ価格などコストが上昇したから」が32.4%と高くなった。
- 3ヵ月後 (7月) の見通し** は、「上昇・好転」が1.5ポイント上昇して24.1%、「下降・悪化」が5.2ポイント下降して22.2%となり、DIは**6.7ポイント上昇して1.9**となった。
- 4月の前年同月比** は、「上昇・好転」は横ばいの24.4%、「下降・悪化」が5.2ポイント下降して26.3%となり、DIは**5.0ポイント上昇して-1.9**となった。  
業種別DIは、製造業で10.7ポイント下降して-7.9となり、非製造業で16.9ポイント上昇して2.6となった。

注：ネットモニター調査は、2019年4月から大阪市経済戦略局と（公財）大阪産業局が共同実施しており、両調査の回答を集約のうえ、とりまとめて結果を公表しております。

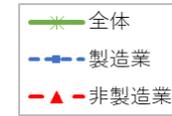
図 A 景況判断



### 図 B 景況DIの推移（業種別）

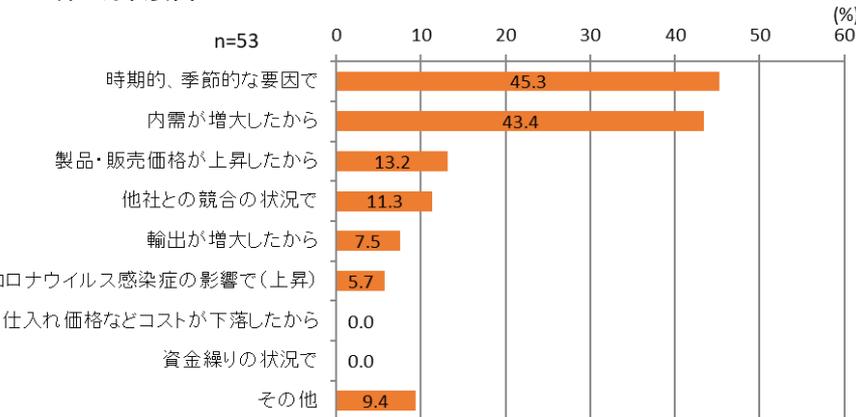


\* DI（Diffusion Index）は、「上昇・好転」の割合から、「下降・悪化」の割合を引いた数字。景気動向を表す指標のひとつ。

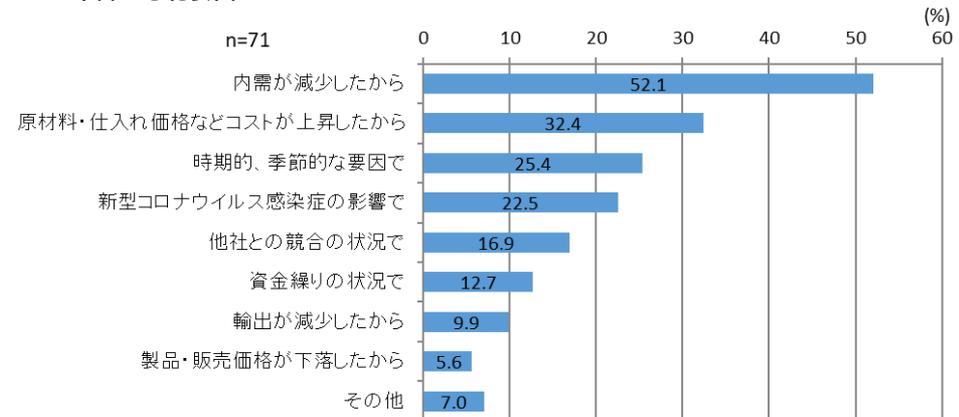


### 図 C 前月比景況変化の理由

<上昇・好転要因>



<下降・悪化要因>



# 《新型コロナウイルス感染症の拡大によるビジネスへの影響》 図D

## < 全体 >

- 「マイナスの影響が持続」は51.9%と5割を超えた。
- 「マイナスの影響があったが、現在はほぼ回復」は23.5%となった一方、「マイナスの影響が今後生じる可能性がある」は12.5%となった。

## < 業種別 >

- 「マイナスの影響が持続」は、製造業で47.3%、非製造業で55.5%となり、非製造業が8.2ポイント上回った。
- 「マイナスの影響があったが、現在はほぼ回復」は、製造業で29.1%、非製造業で19.2%と、製造業が9.9ポイント上回った。

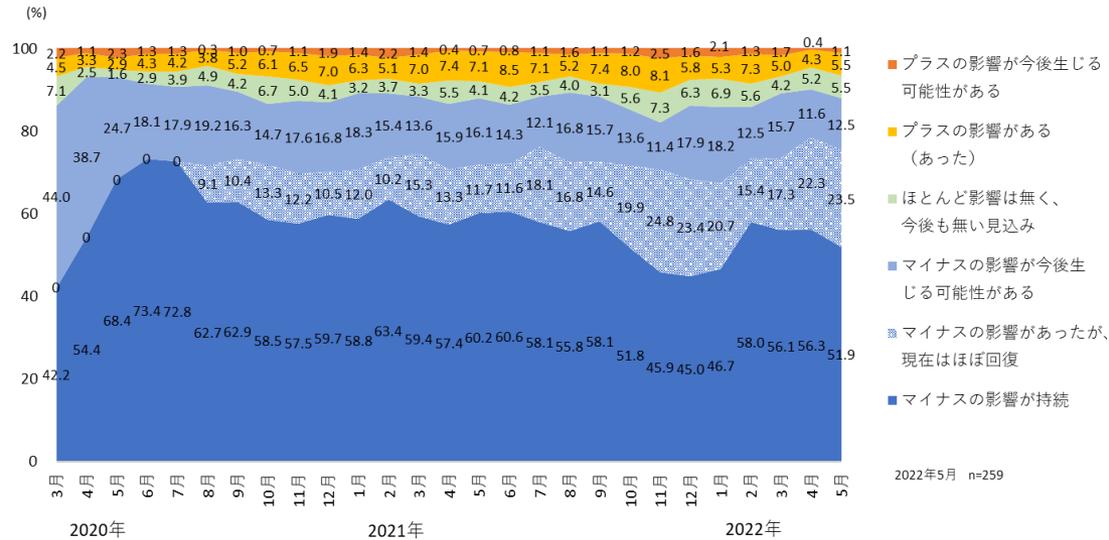
## < 規模別 >

- 「マイナスの影響が持続」は、0-5人で59.5%と最も高くなった。また、6-20人では51.6%、101人以上では50.0%と、21-100人を除き、5割以上となった。
- 「マイナスの影響があったが、現在はほぼ回復」は、21-100人で37.9%と、最も割合が高くなった。

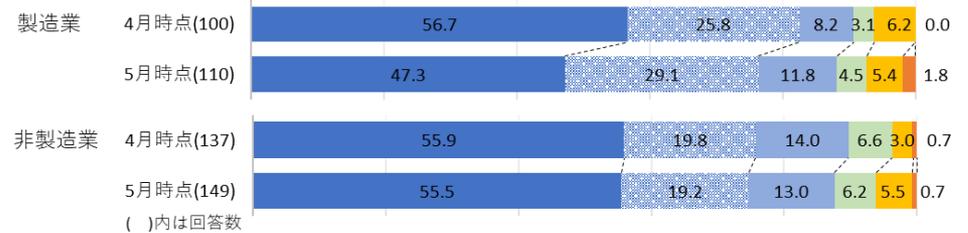
# 図D 新型コロナウイルス感染症の拡大によるビジネスへの影響

※「マイナスの影響があったが、現在はほぼ回復」は2020年8月から選択肢に追加。  
 ※「わからない」という回答を除く集計。

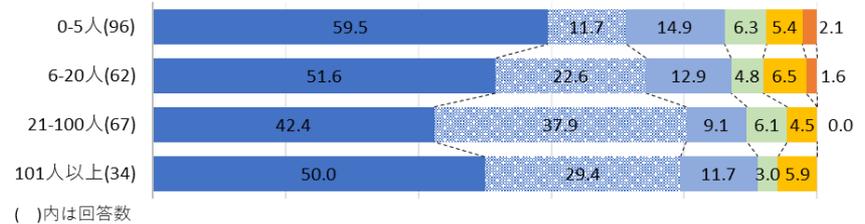
## < 全体 >



## < 業種別 >



## < 規模別 >



( )内は回答数

- マイナスの影響が持続
- マイナスの影響があったが、現在はほぼ回復
- マイナスの影響が今後生じる可能性がある
- ほとんど影響は無く、今後も無い見込み
- プラスの影響があった (あった)
- プラスの影響が今後生じる可能性がある

## 《社員数の過不足（正社員、非正社員を含めた総数）》 図E

### <全体>

- 全体では、「過不足なし」が45.1%と割合が最も高くなった。
- “不足”（「不足」と「やや不足」の合計）は2021年より5.3ポイント上昇して41.6%となった。
- “過剰”（「過剰」と「やや過剰」の合計）は4.2ポイント下降して13.3%となった。

### <業種別>

- 製造業では、“不足”が8.2ポイント上昇して38.1%となった一方で、「過不足なし」が10.1ポイント下降して43.8%となった。“過剰”は1.9ポイント上昇して18.1%となった。
- 非製造業では、“過剰”は9.5ポイント下降して9.1%となり、「過不足なし」が7.3ポイント上昇して46.3%となった。“不足”は2.3ポイント上昇して44.6%となった。

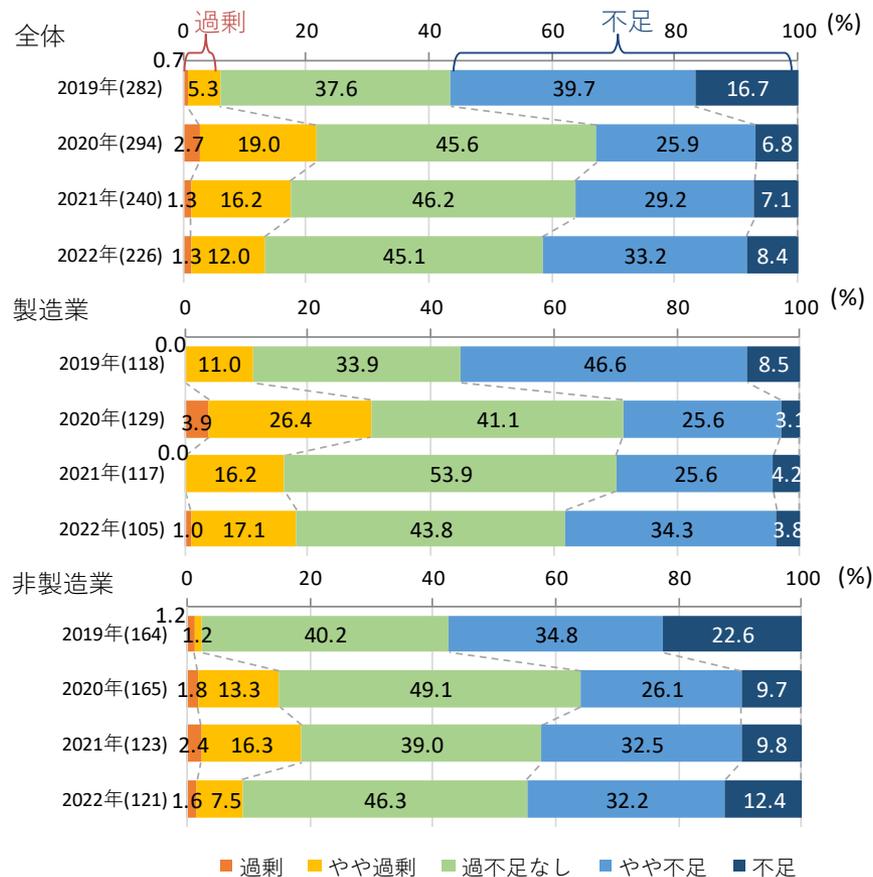
### <規模別>

- 規模が大きいほど“不足”の割合が高くなる傾向となり、0-5人では32.8%、6-20人では42.3%、21-100人では42.6%となり、101人以上では54.3%と50%以上となった。
- 0-5人では「過不足なし」が59.3%となった。
- “過剰”は、0-5人では7.9%となったが、6人以上の規模では1割を上回った。

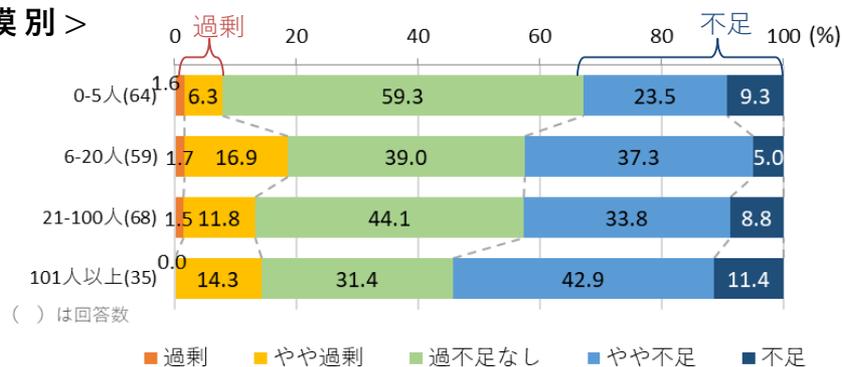
## 図E 社員数の過不足（正社員、非正社員を含めた総数）

※「該当者はいない」という回答を除く集計。

### <全体・業種別>



### <規模別>



## 《 正社員、非正社員別の過不足 》 図F

### < 全体 >

- 正社員の状況をみると、「過不足なし」が44.9%、「不足」（「不足」と「やや不足」の合計）が42.0%と、ほぼ同率となった。
- 非正社員では、「過不足なし」が52.3%と5割を超え、次いで、「不足」が36.3%を占めた。

### < 業種別 >

- 製造業では、正社員は「過不足なし」が45.2%、「不足」は39.4%となった。非正社員は「過不足なし」が58.1%と約6割を占め、「不足」は29.1%と、正社員より10.2ポイント下回った。
- 非製造業では、正社員は、「過不足なし」が44.4%、「不足」が44.6%とほぼ同率となった。非正社員も、「過不足なし」が46.7%、「不足」は43.3%と、ほぼ同率となった。

### < 規模別 >

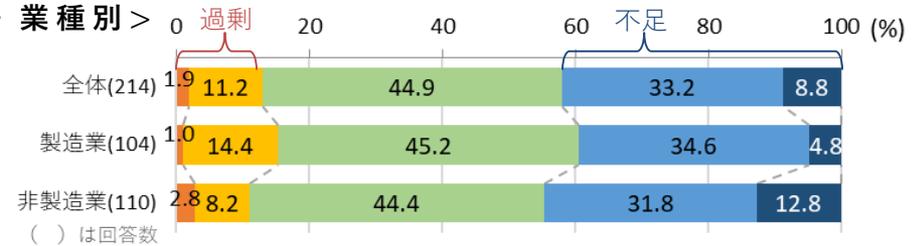
- 正社員では、規模が大きいほど「不足」の割合が高く、101人以上では、65.7%となった。しかし、「不足」では、0-5人で13.1%と1割を上回り、最も高い割合となった。
- 非正社員では、「過不足なし」が規模に関わらず約5割となり、「不足」は、規模が小さいほど割合が高いものの約3~4割となり、規模による大きな差はみられなかった。
- “過剰”（「過剰」と「やや過剰」の合計）は、正社員、非正社員とも0-5人で1割未満、6人以上の規模では1割を超えた。

## 図F 正社員、非正社員別の過不足

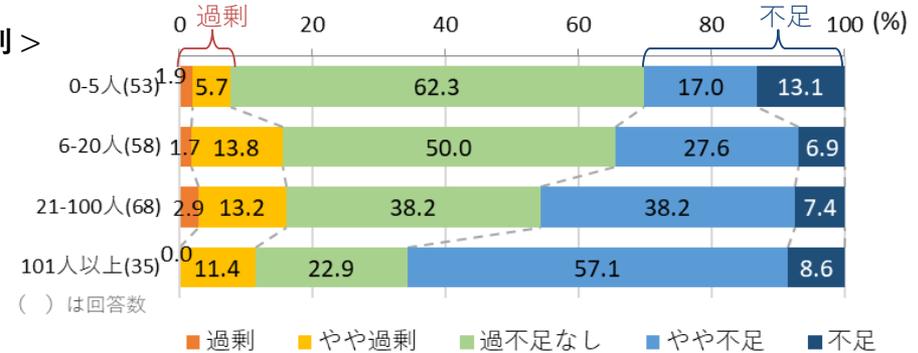
### ◇ 正社員

※「該当者はいない」という回答を除く集計。

#### < 全体・業種別 >

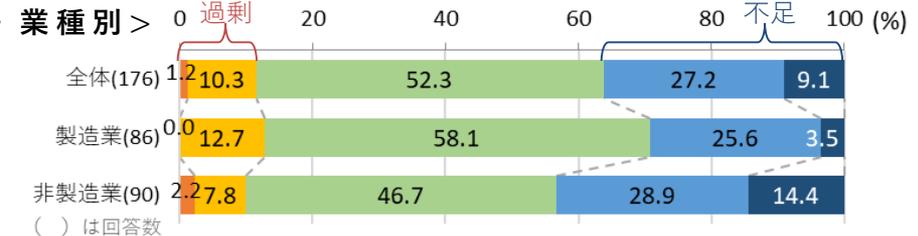


#### < 規模別 >

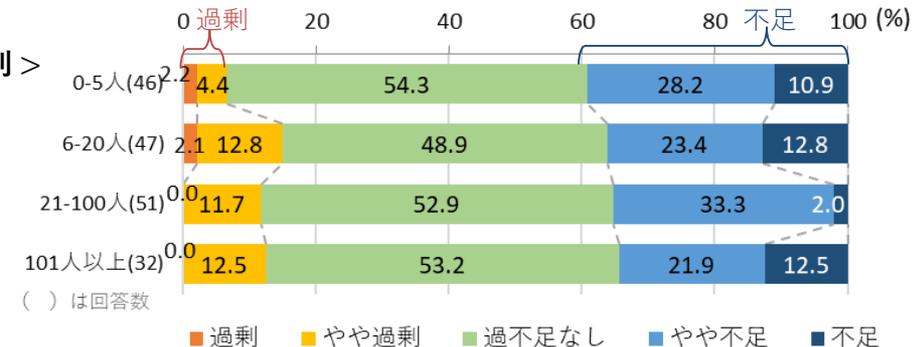


### ◇ 非正社員

#### < 全体・業種別 >



#### < 規模別 >



## 《昨年度（2021年度）の採用者数の実績》 図G

### <全体>

- 新卒正社員（2022年3月卒）を採用した企業は全体の27.8%、中途正社員は45.0%となり、正社員採用数は、2020年度に対して「横ばい」の割合が最も高くなった。
- 非正社員を採用した企業は35.4%で、採用数は「増加」が9.8%、「横ばい」が21.1%となった。

### <業種別>

- 製造業において社員を採用した割合は、新卒正社員は31.8%、中途正社員は54.9%、非正社員は42.5%となった。採用数は、新卒、非正社員では「横ばい」が、中途正社員では「増加」が最も高くなった。

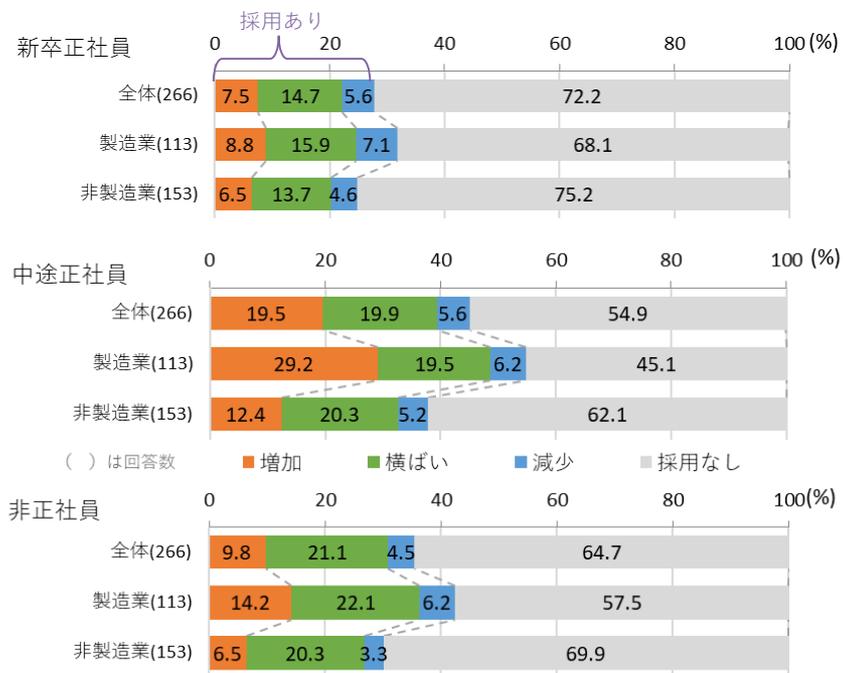
- 非製造業において社員を採用した割合は、新卒正社員が24.8%、中途正社員が37.9%、非正社員が30.1%となり、いずれも製造業を下回った。採用数はいずれも「横ばい」が最も高くなった。

### <規模別>

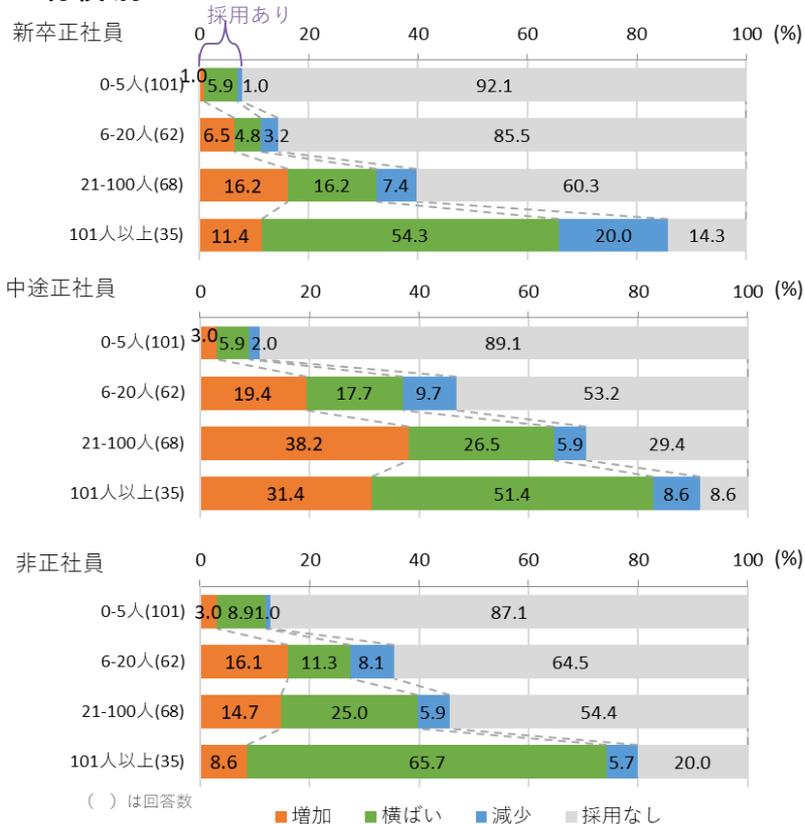
- 正社員、非正社員のいずれも、規模が大きいほど採用した割合が高く、101人以上は8割以上となった。
- 101人以上では、いずれも採用数が「横ばい」が最も高くなった。一方、中途正社員は「増加」が31.4%と3割を上回った。
- 21-100人では、正社員、非正社員といずれも採用数を「増加」した割合が、101人以上を上回り、なかでも中途正社員は38.2%と約4割となった。

図G 昨年度（2021年度）の採用者数の実績

### <全体・業種別>



### <規模別>



## 《2021年度における採用者数の確保状況》 図H

### <全体>

- 採用予定数に対する確保の状況をみると、中途正社員では「希望・予定通り採用できなかった」（以下「希望通りではない」と表記）が22.6%と、最も高くなった。
- 新卒正社員では、「希望・予定通り採用できた」（以下「希望通り」と表記）が「希望通りではない」をやや上回り、非正社員は、「希望通り」と「希望通りではない」がほぼ同率となった。

### <業種別>

- 製造業では、中途正社員は「希望通りではない」と「希望通り」がともに23.9%と同率となったが、新卒正社員および非正社員は「希望通り」が最も高くなった。

び非正社員は「希望通り」が最も高くなった。

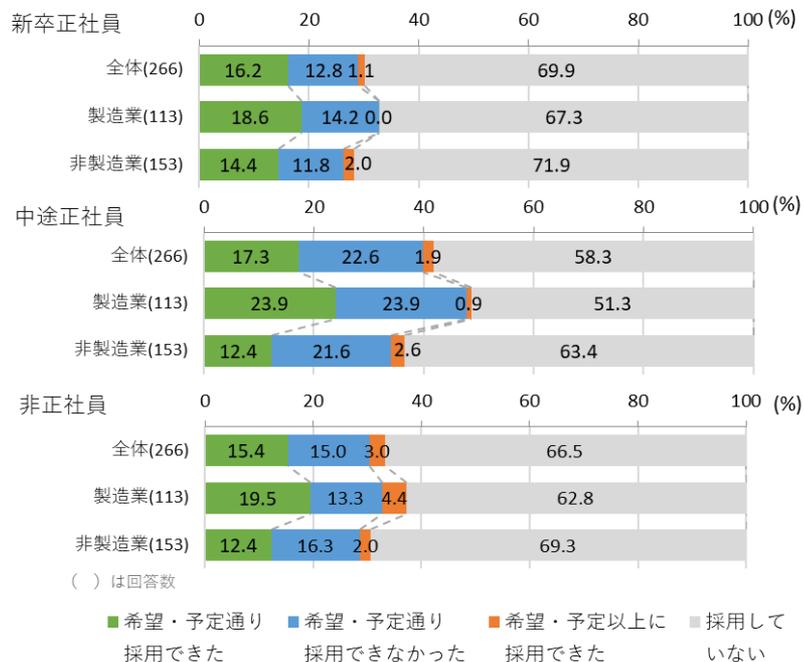
- 非製造業では、中途正社員、非正社員とも「希望通りではない」が最も高くなったが、新卒正社員は「希望通り」が最も高くなった。

### <規模別>

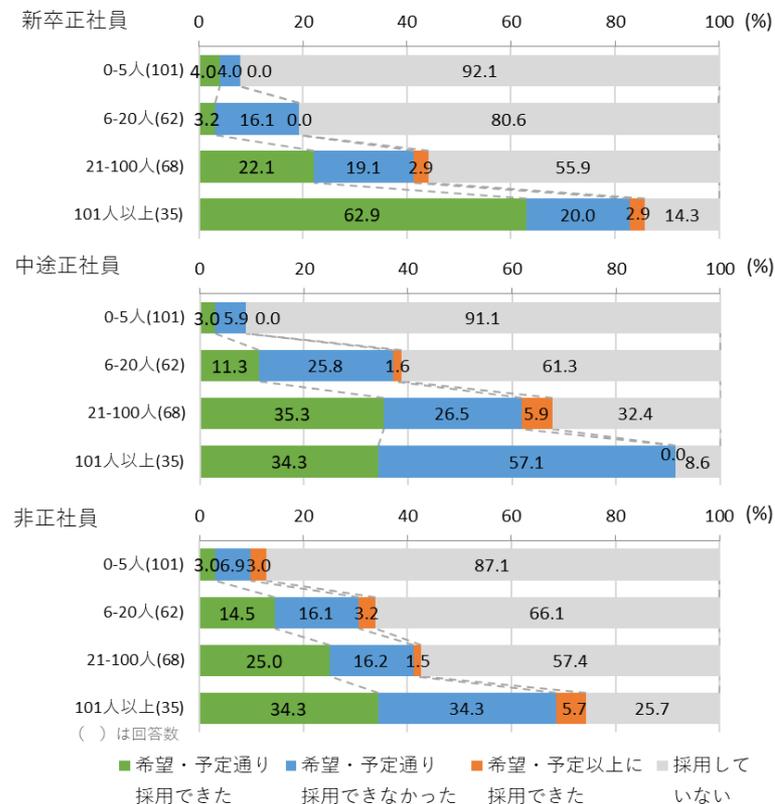
- 新卒正社員では、「希望通り」は規模が大きいほど高く、101人以上で62.9%となった。「希望通りではない」は、0-5人では4.0%となった一方で、6人以上の規模では約2割となった。
- 中途正社員では、21-100人と101人以上で「希望通り」の割合が約35%となった。一方で、「希望通りではない」が、101人以上では57.1%と6割近くとなった。

図H 2021年度における採用者数の確保の状況

### <全体・業種別>



### <規模別>



## 《今年度(2022年度)の採用計画による採用者数》 図1

### <全体>

- 新卒正社員（2023年3月卒）の採用予定企業（「増加」、「横ばい」、「減少」の合計）は全体では27.4%、中途正社員は38.3%、非正社員は25.2%となった。
- 採用予定数の前年度比をみると、新卒正社員、非正社員では、「横ばい」が「増加」を2倍近く上回ったのに対して、中途正社員では、「増加」と「横ばい」がほぼ同率となった。

### <業種別>

- 製造業では、採用予定企業は、新卒正社員は27.4%、中途正社員は44.2%、非正社員は29.2%。非製造業では、

新卒正社員は27.5%、中途正社員は34.0%、非正社員は22.3%となり、製造業が上回った。

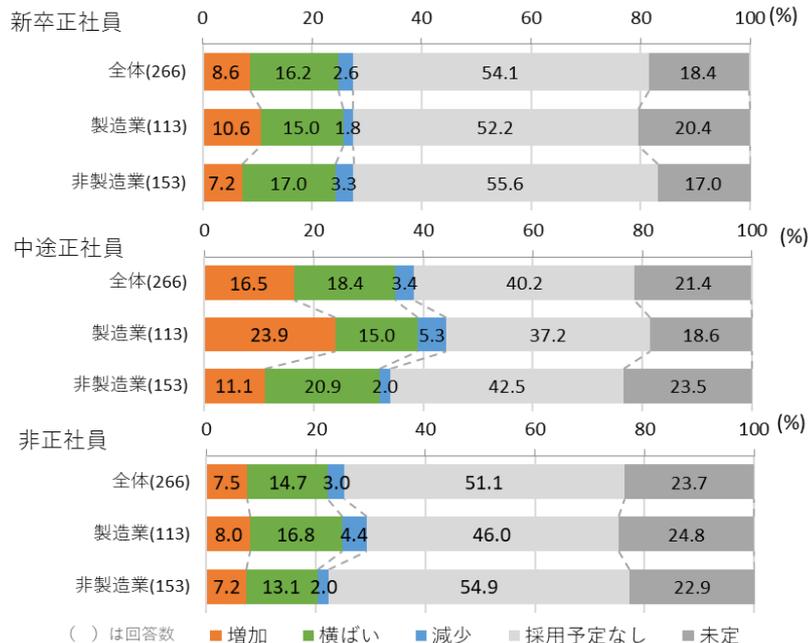
- 採用予定数については、製造業の中途正社員で「増加」が23.9%と2割を超え、「横ばい」を上回ったが、そのほかは「横ばい」が最も高くなった。

### <規模別>

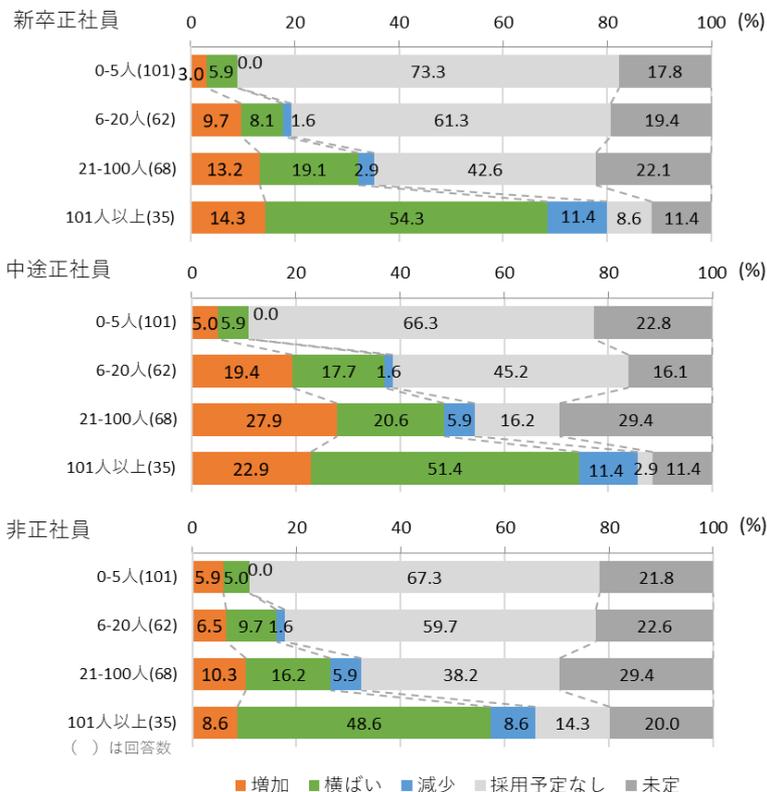
- 採用予定企業の割合は規模が大きいほど高く、101人以上では、新卒正社員は80.0%、中途正社員は85.7%、非正社員は65.8%と、突出して高くなった。
- 採用予定数については、「増加」は、新卒正社員と非正社員では規模による差は比較的小さくなった。また、中途正社員では「増加」の割合が高く、6人以上の規模では約2割を超えた。

図1 今年度(2022年度)の採用計画による採用者数

### <全体・業種別>



### <規模別>



## 《新卒正社員(2023年3月卒)の採用(内定)状況》図J

### <全体>

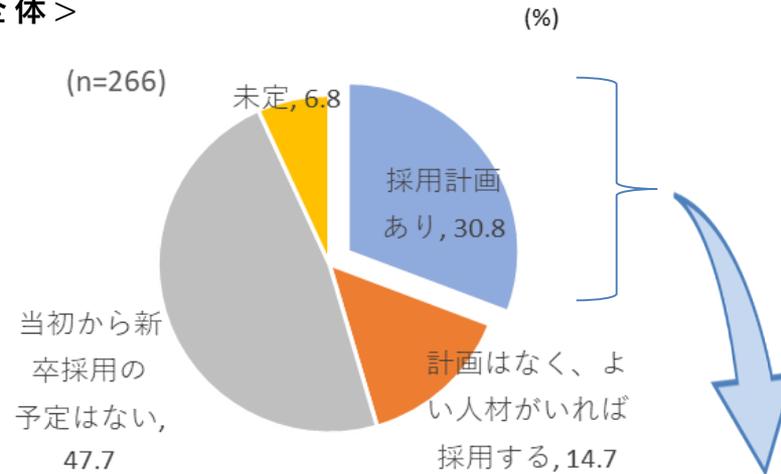
- 新卒正社員の採用状況についてみると、“採用計画あり”は全体の30.8%である。
- “すでに採用(内定)した・現在募集中”は90.2%となり、昨年よりも11.2ポイント上回った。
- このうち、「計画通り募集中」は前年より3.2ポイント上昇して58.5%、「すでに採用(内定)した」は0.7ポイント上昇して15.9%となった。

### <業種別>

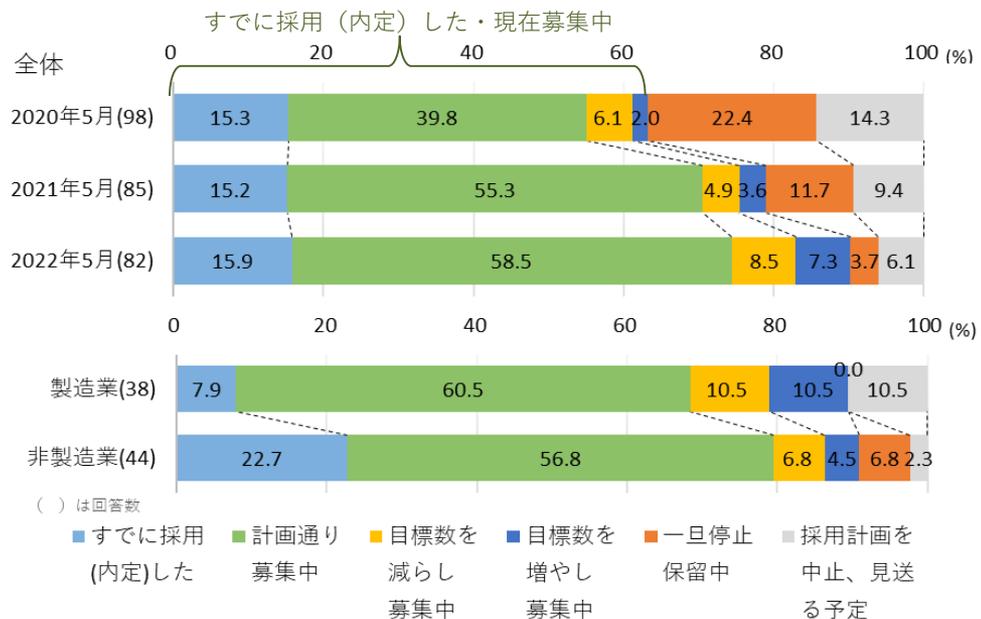
- 製造業では「計画通り募集中」が60.5%、「すでに採用(内定)した」は7.9%となった。
- 非製造業では「計画通り募集中」は56.8%となった一方、「すでに採用(内定)した」が22.7%と、製造業を14.8ポイント上回った。

図J 新卒正社員(2023年3月卒)の採用(内定)状況(回答時点)

### <全体>



### <全体・業種別> ※上の図で、「採用計画あり」の回答の内訳



## 《資金繰りDIの推移》 図K

### <全体>

- 資金繰りについて、「順調（良い）」の割合から「逼迫（悪い）」の割合を差し引いた資金繰りDIは、横ばいの22.5となった。

### <業種別>

- 製造業では、DIは、10.0ポイント下降して16.8となった。
- 非製造業では、DIは、7.5ポイント上昇して、26.8となった。

### <規模別>

- 0-5人では、DIは、2.0ポイント下降して-2.0となった。
- 6-20人では、DIは、横ばいの17.8となった。
- 21-100人では、DIは、4.4ポイント上昇して54.4となった。
- 101人以上では、DIは、横ばいの40.0となった。

図K 資金繰りDIの推移

### <全体・業種別>



### <規模別>

